

第38回 現代世界の地誌的考察

■■ 現代世界の諸地域編 ■■

世界のさまざまな地域を見てみよう

～ラテンアメリカ ①～

監修・講師

矢ヶ崎典隆

学習のねらい

ラテンアメリカは赤道の南北に広がる広大な地域で、メキシコ、中央アメリカ、西インド諸島、南アメリカから構成される。もともと先住民が住んでいた世界に、コロンブスの到来以降、イベリア半島を中心としたヨーロッパから移住者が流入し、新しい社会と文化が形成された。地域によって異なる自然、そして文化的な共通点や相違点について考えてみよう。

今回のポイント

- ラテンアメリカの自然と文化
- 地域によって異なる人種・民族構成
- 日本とラテンアメリカの結びつき

■■■ ラテンアメリカの自然と文化 ■■■

自然環境は、緯度、地形、高度などを反映して多様である。熱帯、温帯、乾燥帯、高山など、気候は地域によって異なる。南アメリカの西側にはアンデス山脈があり、標高 6,000 メートルを超える山々が連なる一方、東側は古い地域で、高原や平原が広がる。アンデス高地では、コロンブスの到来以前から多くの先住民が暮らし、インカ文明が栄えた。また、アマゾン川流域では、多様な動植物を利用する暮らしが営まれた。ラテンアメリカの先住民は、各地域の自然の恵みを利用し、独自の生活様式を確立した。一方、イベリア半島などから移住した人々は、スペイン語やポルトガル語、カトリック、牛や牧畜の伝統、社会のしくみを持ち込んだ。先住民人口は天然痘などの病気の流行によって激減した一方で、ヨーロッパ系の人々によって新しいラテン系の社会が形成された。ラテンアメリカには自然や文化の地域差がみられるが、アングロアメリカと比較すると、社会や文化には共通点も少なくない。

■■■ 地域によって異なる人種・民族構成 ■■■

人口構成は地域によって異なる。それは、コロンブス到来以前の先住民人口の分布、ヨーロッパ人による経済活動の形態、アフリカ系奴隷の導入の地域差を反映している。また、人種・民族が混ざり合うことによって人口構成は多様化した。たとえば、メキシコやアンデスではもともと先住民が多かったが、ヨーロッパ系白人と先住民との混交も進み、メスチーソと呼ばれる人々が増加した。西インド諸島では、病気の流行で先住民がほぼ全滅すると、アフリカ系奴隷が砂糖産業を担う存在となった。その結果、アフリカ系人口が多くみられるとともに、アフリ

カ系とヨーロッパ系との混交も進んで、ムラートと呼ばれる人々が増加した。アルゼンチンやウルグアイのように、もともと先住民が少なく、アフリカ系奴隷に依存したプランテーションがほとんど展開しなかった地域では、ヨーロッパ系の比率が極めて高い。ブラジルではヨーロッパ系が多いが、アフリカ系や先住民などとの混交が進んでいる。

■■■ 日本とラテンアメリカの結びつき ■■■

20 世紀にはアジアからの移民も流入し、ラテンアメリカの人口構成はさらに多様化した。日本人のラテンアメリカへの集団的な移住は 19 世紀末に始まった。日系人口が最も多いのはブラジルで、今日、190 万人の日系人が暮らしている。ブラジルへの集団移住は、笠戸丸によって 1908 年に始まり、初期の移民はサンパウロ州内陸部のコーヒー農園で契約労働者として働いた。1930 年代に入ってコーヒー経済が衰退すると、移民の制限措置によって中断したが、1950 年代に入って再開した。20 世紀を通じて、ラテンアメリカに移住した日本人は 35 万人近くにのぼる。現在では、日系人は農業ばかりでなく、専門職を含めたさまざまな分野で活躍している。一方、労働力不足が深刻化する日本では多くの日系人が働いている。資源に恵まれたラテンアメリカには、日本の企業が進出し、鉱産物や農産物の貿易も盛んである。日本とラテンアメリカの国々は、経済的にも文化的にも結びつきを強めている。